

◆ 今週のコメント

- ・ 劇症型溶血性レンサ球菌感染症の報告が、1例(男性・30歳代)あります。本年の累積報告数は5例です。感染地域は国内で、感染経路は創傷感染です。感染症発生動向調査を始めた平成11年4月以降の累積報告数は22例で、年齢階級別では、10歳未満 1例、30歳代 4例、50歳代 2例、60歳代 7例、70歳代 6例、80歳代が2例となっています。推定感染経路は、創傷 8例、飛沫・飛沫核感染 2例、その他 3例、不明 9例となっています。本疾患は、未だその発症の仕組みが明らかになっていないことから、届出された場合に菌株の提供及び調査票等の記入を依頼することがありますので、御協力をお願いいたします。
- ・ RSウイルス感染症の定点当たり報告数は、0.29(12例)で、先週(0.12(5例))より倍増し、過去5年平均値を大きく上回っています。例年、夏季にはほとんど報告はありませんが、本年は2週連続して報告があります。今後の動向に御注意ください。

◆ 今週のトピックス: <腸管出血性大腸菌感染症>

腸管出血性大腸菌感染症の報告が2例(20歳代男性、10歳代女性)あり、血清型別、毒素型は、いずれもO157(VT1・VT2)です。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- ・ 二類: 結核 6例(肺結核 2例, その他結核 なし, 潜在性結核感染者 4例)うち喀痰塗抹陽性 なし
【1月以降の累積報告数 279例(肺結核 109例, その他結核 62例, 潜在性結核感染者 108例)うち喀痰塗抹陽性 55例】
- ・ 三類: 腸管出血性大腸菌感染症 2例【1月以降の累積報告数 13例】
- ・ 五類: 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 5例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ	インフルエンザ	0.00	0
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	2.02	83
	② ヘルパンギーナ	1.02	42
	③ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.39	16
	③ 水痘	0.39	16
	⑤ RSウイルス感染症	0.29	12
	⑤ 手足口病	0.29	12
眼科	流行性角結膜炎	0.20	2

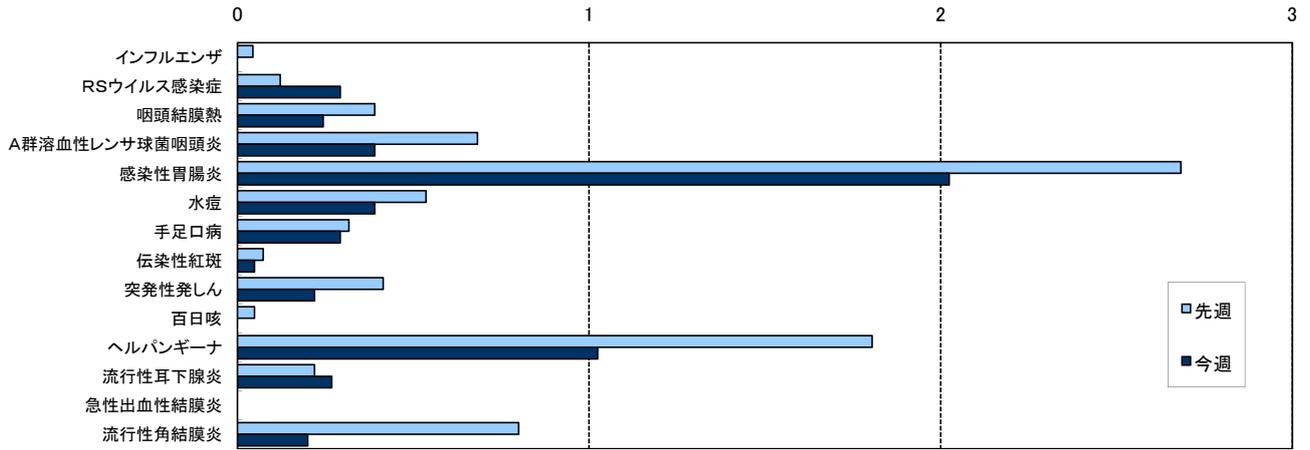
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <腸管出血性大腸菌感染症>

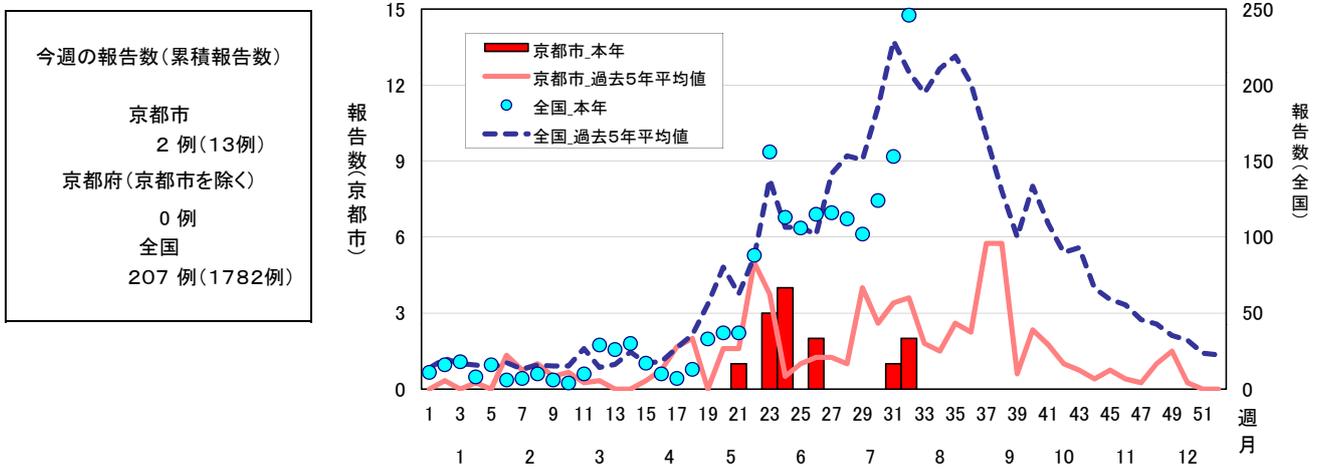
(注) 京都市のデータは、平成24年8月16日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第32週)と先週(第31週)の定点当たり報告数の比較

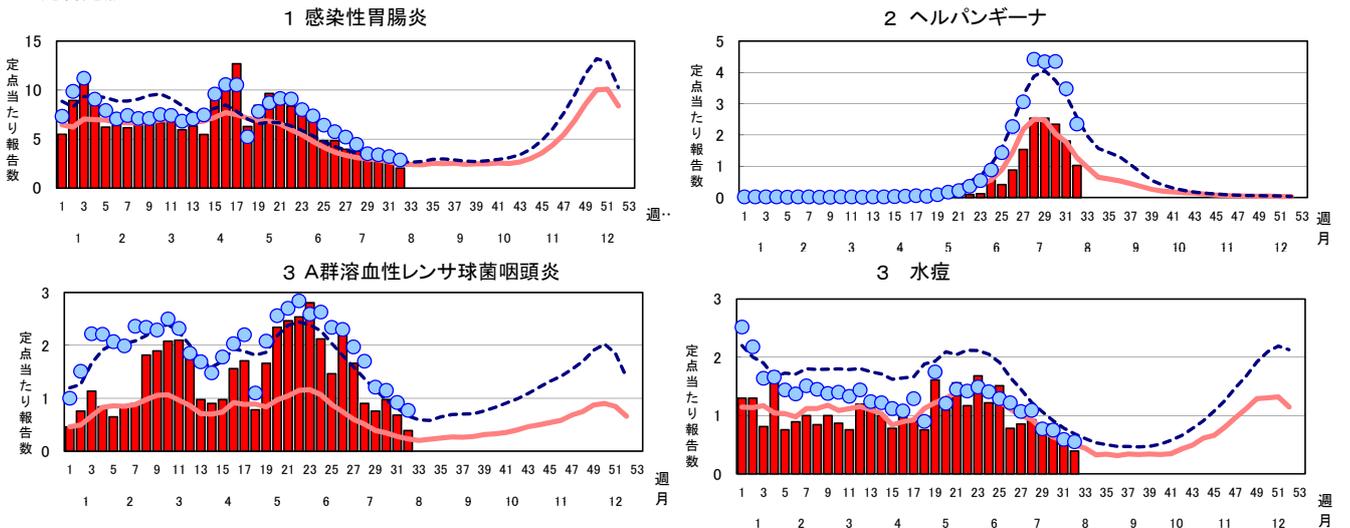


2 腸管出血性大腸菌感染症の推移

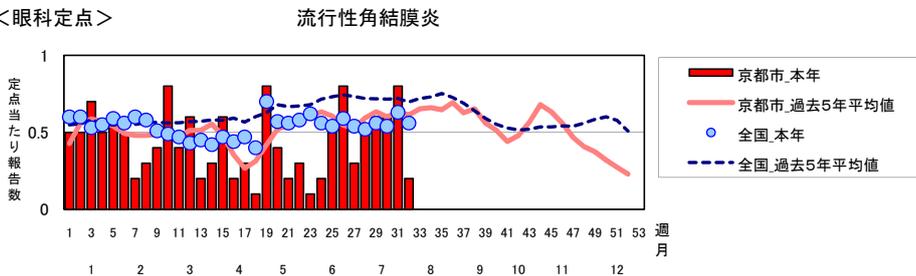


3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



第32週(8月6日～8月12日)トピックス: <腸管出血性大腸菌感染症>

腸管出血性大腸菌感染症の報告が2例(20歳代男性, 10歳代女性)あり, 血清型別, 毒素型は, いずれもO157(VT1・VT2)で, 推定感染経路はいずれも経口感染です。

本年の累積報告数は13例となっています。散発10例, 家族3例で, 性別は女性7例, 男性6例です。血清型(毒素型)は, O157(VT1・VT2) 8例, O157(VT1) 1例, O157(VT2) 1例, O145(VT1) 1例, O165(VT2) 1例, HUS(溶血性尿毒症症候群)発症で血清型不明1例となっています。推定感染経路は, 経口感染が8例, 原因不明が5例となっています。

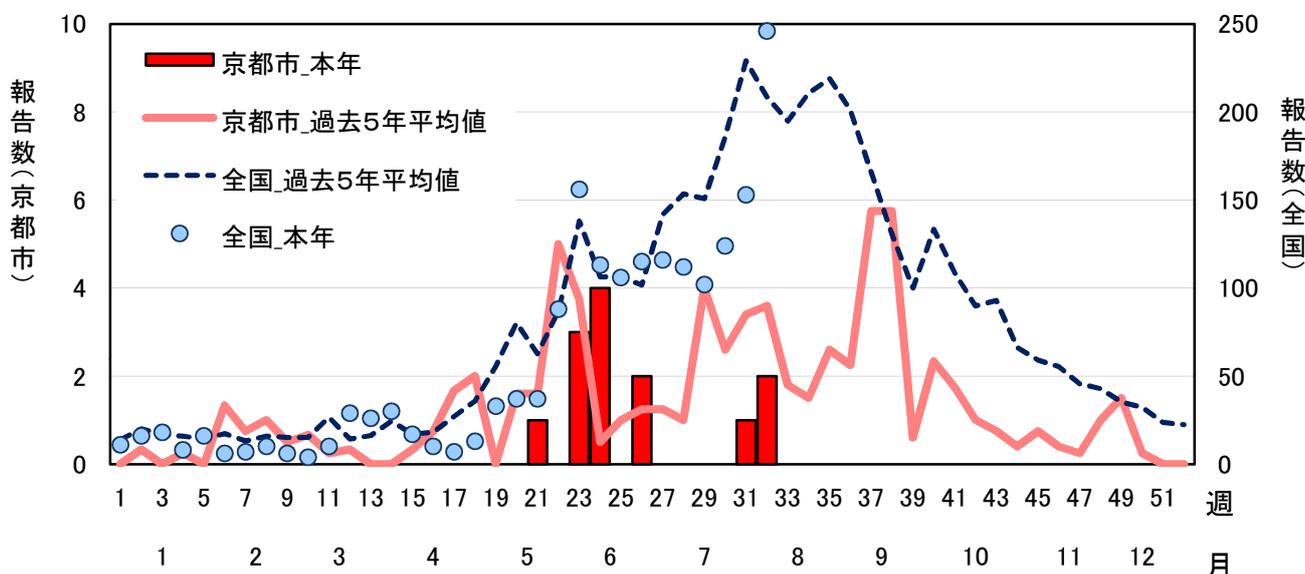
全国では3週連続増加しており, 第32週には, 北海道において腸管出血性大腸菌O157に100人規模で感染, 発症し, 死者を伴う集団食中毒となっています。

医療機関におかれましては, 腸管出血性大腸菌感染症を診断された場合は, 速やかに所轄の保健センターに届出していただくようお願い致します。また, 腸管出血性大腸菌感染症報告後にHUSの発症が認められた場合は, 追加報告をお願い致します。

[医師の届出基準, 届出の様式](京都市保健衛生推進室保健医療課のホームページ)

<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000043726.html>

本市及び全国の報告数の推移



本市における診断年別 型別報告数

診断年	合計	O26	O86	O91	O103	O111	O121	O145	O157	O165	その他
平成11年4月以降	26								25		O1が1例
平成12年	33	8							25		
平成13年	52	8				1			43		
平成14年	35				1				32	1	型別不明が1例
平成15年	101	5							96		
平成16年	48	2					4		42		
平成17年	36	5		1					30		
平成18年	57	2					1		54		
平成19年	54	2				3			49		
平成20年	86	34			5	2		3	41		HUS患者で型別不明が1例
平成21年	93	8		1		3	1	1	79		
平成22年	34	1			1	2			30		
平成23年	34		1			1		1	30		HUS患者で型別不明が1例
平成24年第32週まで	13							1	10	1	HUS患者で型別不明が1例